

森林やまがた

No.76

2003 7月



目次

ポスト植樹祭と「遊学の森」オープン…	2
木質バイオマスの現状と課題……………	4
現地ルポ	
県内初 木質ペレット工場誕生…………	5
緑の少年団活動報告	
緑の少年団活動を通して……………	6
1年間の活動から学んだこと…………	6

きのご振興会の活動状況……………	7
普及情報	
持続可能な森林経営……………	8
特用林産功労者表彰……………	9
山形県の古木・名木……………	10
公共木造施設……………	10

(表紙写真は、第53回全国植樹祭記念ポスト植樹祭式典会場：金山町)

はじめに

去る六月七日、金山町有屋の「遊学の森」で「森のくに」未来に向けて、をテーマに第五十三回全国植樹祭を記念したポスト植樹祭【平成十五年度山形県植樹祭】が林野庁長官、東北森林管理局長、国土緑化推進機構副理事長、岸宏一参議院議員はじめ、県内各地から約一六〇〇名の参加者を得て、盛大に開催されました。

この植樹祭では、全国植樹祭を記念して天皇陛下からいただいた御製の記念碑の除幕式や、「遊学の森」の開場宣言、森林交流施設「木もれび館」の開館式なども併せた祭典とな

りました。また、東京、関西、東海、北海道の各県人会からも参加していただき、植樹祭を盛り上げていただきました。天候にも恵まれ、式典等は滞りなく行われましたので、あらましを紹介します。

「遊学の森」開場宣言

遊学の森は、県内四番目の県民の森として、「森林と人とが共生するモデル地域の創造」を基本理念に、拠点となる金山町有屋地区について、平成九年度から整備を進めてきました。本年度から供用開始となったことから、知事が式典に先立ち二十一世紀にふさわしい森林文化社会の創造をめざしてと、声高らかに「遊学の森」の開場を宣言しました。

御製碑の除幕式

第五十三回全国植樹祭を記念して天皇陛下からいただいた御製を刻んだ記念碑の除幕式が主催者、来賓者の代表八名によって行われました。全国植樹祭の思いを次の世代に引き継ぐために建碑されたものであります。

「遊学の森」

に集いて

植ゑし木々

人ら親しむ

森となれかし

と歌われております。

「遊学の森」を訪れた折には、ぜひご覧いただきたいと思えます。



「遊学の森」の開場宣言



式典会場全景と「遊学の森」の開場宣言



御製碑の除幕式も終えて談笑する知事

ポスト植樹祭式典

植樹祭は、地元金山町の女声合唱団「美杉コーラス」によるさわやかな合唱、緑の少年団の元気な入場行進ではじまり、「遊学の森」開場宣言、記念碑除幕式に引き続き式典が行われました。主催者等のあいさつ、緑化功労者・森林交流館愛称入賞者等の表彰のほか、「森とみどりの讃歌」や緑の少年団のメッセージの発信があり、式典を盛り上げました。

「森とみどりの讃歌」では、ソプラノ歌手松倉とし子さんのすばらしい歌声が会場に響きわたり式典に華を添えていただきました。

また、緑の少年団のメッセージ発信では、森のくにの未来に向けて金山町立有屋小学校六年阿部ひかりさ

森のくに 未来に向け 第53回全 ポスト植樹祭が



「森とみどりの讃歌」
熱唱するソプラノ歌手松倉とし子さん

んと柴田みさ子さんの二人に森林づくりの輪を大きく広げてゆくことを声高らかに約束していただきました。また、メッセージと同時に、森の恵みが絶えることのないようにとの願いを含め、参加少年団員六四〇名の



“森のくに 未来に向けて”のメッセージを発信

代表五〇名から飛ばされた風船が、式典会場の空高く舞い上がりました。
森林交流施設「木もれび館」開館式
一方、式典終了後、遊学の森の中核施設森林交流館の開館式が行われました。森林交流館は、四季を通じてインフォーメーション、人と森との交流の場、自然と森の学習機能の提供を目的に建設されました。
施設の愛称「木もれび館」は、公募による応募総数二三八点の中から選ばれたもので、木造建築をアピールするとともに、さわやかで優しい感じを受ける「木もれび」をキーワードとして、「森と人」「人と人」との交流が生まれることの願いがこめられております。
開館式では、知事と金山町の緑の



みごと巨くす玉が割られ「木もれび館」開館

少年団の代表、愛称入賞者、金山町区長会会長の八名によりくす球が割られ、めでたく「木もれび館」の開館となりました。開館後、多くの方々から館内をご覧いただきました。木もれび館は、建築面積五三八㎡、延床面積六一〇㎡で森林体験ホール・森林学習ホール・交流ホールからなり、丸太の柱二十一本、金山材を中心に一五三㎡の木材が使用された県産木材モデル施設です。
森林学習や木工クラフト、地域文化にふれる交流活動など、さまざまな体験プログラムを提供できる施設となっておりますので、多くの皆様方よりご利用していただきたいと思っております。



記念植樹

記念植樹
また、式典会場の隣接広場において参加者による記念植樹が行われました。とちのき広場・手づくり広場（ぶなのき広場）にブナ、トチノキ、ナラなど十種類の広葉樹の苗木一六〇〇本を植樹していただきました。これらの苗木がこの地にしっかりと根をおろし、大樹となって豊かな森林となることを願っております。

おわりに
祭典を通じ、森林を慈しみ、森林に感謝する心と行動の輪を広げるとともに、森林づくりの大切さについて、広く県民に発信することができたものと思います。

今後は、この運動をさらに発展させるため、幅広い県民の参加による森林づくりを一層推進してまいります。
〔県森林課〕

木質バイオマスの現状と課題

各地で活発化するバイオマス資源の有効利用

前回、五月号で木質未利用資源の活用や地球環境問題について説明をしましたが、県では、県内における未利用資源の木質バイオマスへの利用を図る目的から、未利用資源賦存量調査を行い「山形県木質バイオマス資源活用計画」を今年度策定し、利活用に向けた取り組みを推進して行きます。

現在、県内各地域で取り組みが活発になっていくことから各地域の取り組み状況について紹介します。

村山地域の取り組み

製材工場で発生する端材や間伐材などの未利用資源を直径約五ミリ、長さ約三センチ程度に固形化した「木質ペレット」を生産、供給するY協同組合（寒河江市）が四月に設立されました。構成員は、村山地域の素材生産業者、製材業者、造園・建設業者、森林組合の二十四団体で国庫補助事業の導入により製造プラントを建設し、木質ペレットの生産を行う予定です。また、これと並行

して、国産のペレットストーブを全国で初めて製品化している天童市内のY製作所では、今シーズンから、遠赤ふく射式とペチカ式のストーブ二種類の生産を予定しています。

最上地域の取り組み

早稲田大学新庄バイオマスセンター（新庄市・平成十四年九月オープン）が中心となった産学官のネットワークでは、木質未利用材をチップ化し、センターで培養した微生物による堆肥化の研究を行っています。また、関連した取り組みとして製材業者が中心となり木質バイオマス研究会が発足しました。研究会では、定期的に会合を開催し、木質資源の利活用について検討を行っていきま

庄内地域の取り組み

榊引町内のW業者で日生産量約八tのペレット製造プラントが五月に完成しました。NPO法人と連携し原材料の確保を行い、ペレットは受注による生産を行っています。

利活用に向けた課題

各地域で木質未利用資源の活用に向けた取り組みを行っています。進めるうえで次の課題について検討する必要があります。

○地域内の資源量調査や原材料の安定した供給体制の整備。

○間伐材の利用を考えた場合に搬出・運搬に掛かる費用（このことは、製造価格に影響します。）

○ペレット供給体制の整備

消費者への供給体制をどのようにしていくか、販売窓口やメンテナンスの問題。（利便性やアフターケアが販路の拡大に繋がっていくと考えられます。）

また、商業ベースだけでなく、公施設においても、ストーブ等の導入を積極的に図っていく必要があります。

このほか、各地域において木質未利用材を原料とした発電を検討している業者が多数あります。今後とも、未利用資源や製材所か

らの端材等を資源として木質バイオマスの活用が図られ、各地域で一層の利用が推進されることを期待します。
〔県森林課〕

県内の木質バイオマスの取り組み状況

地域名	活動団体	バイオマスエネルギー施設導入(予定)	備考
村山地域	協同組合Y 素材生産業者、製材業者、造園・建設業者、森林組合(24団体・寒河江市)	平成15年度にペレット製造施設建設予定。	平成15年4月設立。
	(株)Y製作所(天童市)	ペレットストーブの製作。	遠赤ふく射式とペチカ式の二種類。遠赤ふく射式は、6月より注文受付。
最上地域	早稲田大学新庄バイオマスセンター(新庄市)	木質未利用資源を堆肥化。	平成14年9月にオープン。
	木質バイオマスエネルギー研究会 製材業者等(10団体・新庄市)	ペレット製造施設等、バイオマスエネルギーの利用を検討。	平成14年11月に発足。起業化(事業化)を目指す団体。ゼロ・エミッション(産業廃棄物を一切出さない)に取り組む。
	バイオマスセンターと共に歩むがみの会(新庄市)		平成14年11月に発足。市民組織団体。早稲田大学新庄バイオマスセンターを支援する団体。
庄内地域	(株)W業者(榊引町)	ペレット製造施設(平成15年5月完成)	日生産量約8t。受注生産。NPO法人との連携。(ペレット生産技術等)

注) この他、各地で木質バイオマス発電の構想を検討中

地域エネルギー利用に新たな一歩

地球温暖化防止を目的としたバイオマスエネルギー利用に関する様々な取り組みが各地で行われていますが、このほど県内では初めての木質ペレット製造工場が榊引町大字田代地内（グリーン渡会（株）工場内）に誕生しました。

木質ペレットとは木材を粉碎し圧縮整形した直径が六mm、長さが一〜二cmの固形燃料です。粒状であるため自動燃焼（燃料の自動供給）が可能であり、材質が均一で乾燥していることから安定した燃焼ができるなど、従来から利用されている薪や炭などの木質燃料に比べて利用しやすい形になったものです。

木質ペレットはオイルショック直後の一九八〇年代の初めに一時脚光を浴び、全国で量産された経緯があり、その生産技術はすでに確立されているものです。その後、石油燃料との価格競争に勝てず衰退していましたが、近年、環境型燃料として再び注目を集めています。

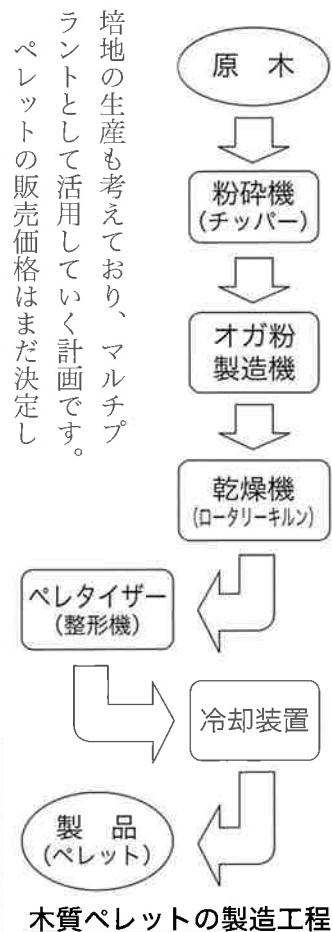
今回製造施設を導入したのは（株）渡会電気土木（代表取締役 渡会昇氏）で、従来からダム流木や建設支障木

等の木質廃棄物処理（チップ化、堆肥化等）を行っている会社です。

ペレットの原料については、当分の間、廃棄物処理委託された木材（建築廃材は含まず）を加工して充てることとしており、現在は庄内砂丘林で発生したマツクイムシ被害木を搬入し、その利用に取り組んでいます。

ペレット生産については、地域にまだ大規模な利用施設（ストローブ、ポイラー）がないことから、当面は受注生産方式で対応していく計画です。同社の社長は「利用が進まないのは地域に生産施設がなく、ペレットが見えないため」と考え、採算度外視でペレット製造施設を導入されました。消費先が見えない状況で多大な経費を投入したその意気込みに感服せざるを得ません。

生産施設は、時間当たり約一tのペレット製造が可能で、粉碎木材の乾燥工程にもペレット燃料を利用する環境配慮型のものとなっています。また、木質だけでなく米糠を原料にしたペレット製造やオガ粉製造機としての利用により家畜敷料、きのこ



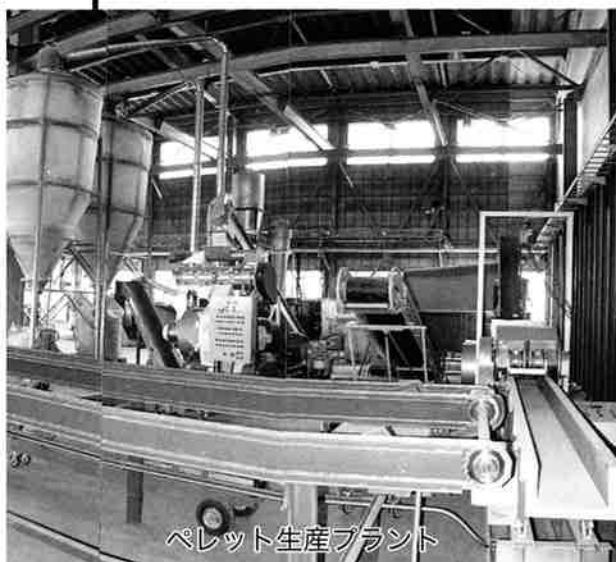
培地の生産も考えており、マルチプラントとして活用していく計画です。ペレットの販売価格はまだ決定していませんが、二五円/kg程度を想定しているようです。灯油一リと同じ熱量を得るにはペレット約二kgが必要ですが、今後消費量が増え、量産体制を取れば単価を下げっていくことは可能としています。

さらに、石油燃料に比べ燃焼機器が相当長持ちする利点もあることから、トータルの経費の優位性でも売り込んでいくことにしています。

庄内地域においても木質バイオマスエネルギー利用の意義や必要性に理解を示す人は結構いるものの、近くで燃料が入手できないという理由から、その利用が進まないというのが現実でしたが、今回、地域産ペレットの生産供給体制が整ったわけので、利用燃焼機器の導入に拍車がかかるとともに、同エネルギー利用への関心も高まってくるものと思われまます。現在のところ廃棄物的な木質資源の利用となっていますが、将来的に

は未利用間伐材の利用など直接森林からの原料供給へと発展し、ひいては森林整備の促進や資源循環型社会の構築に結びついてくることを期待します。

〔庄内総合支庁〕



ペレット生産プラント



生産されたペレット



佐藤さん 小林さん

緑の少年団活動を通して 一年間の活動から学んだこと

酒田市立酒田第六中学校
2年 佐藤瑞希 小林織

緑の少年団活動を通して
私と織恵さんは、中学生として、緑の少年団活動をサポートする役目をするために入団しました。
新しい仲間が入ってきた入団式、

佐藤 瑞希 来

このときは、松山町の森林教室でウッドクラフトをしました。みんなが待ちに待った最初の泊まり「ルンルン冒険団」では、海浜青年の家に宿泊しました。友達が増えたと喜んでる人も多くいました。カヌー遊びやコルクコースター作りなど日常生活ではなかなか体験できないことができました。

二回目の宿泊

「緑の少年団庄内交流会」では、朝日村大鳥少年の家にお世話になりました。川遊びでは、魚つかみをしたり、キャンプファイヤーで歌を歌つ



「金山・酒田緑の少年団交流会」での枝打ち作業

たりして大いに盛り上がりました。
「金山・酒田交流会」は、毎年行っている金山緑の少年団との交流会です。今年は、酒田で黒松の枝打ちやアサリ採り、スイカ割りをして楽しみました。
その後の活動には、若王寺の釣り大会、きのか栽培体験、酒田の野鳥



松山町「眺海の森」での森林教室

動できました。
一年間の活動から学んだこと
小林 織恵
緑の少年団活動を通して学んだこと、思ったことは、たくさんあります。緑の大切さ、自然の大切さ、自然の偉大さ、たくさんの人達との交



「緑の少年団庄内交流会」での下刈り作業

などでの活動では、カヌーの乗り方などを学びます。そのほかに、班ごとにご飯を作ったり、協力して活動したりします。このように、班で協力して活動すると自然に今まで知らなかった人とも話せるようになり、交流することができそうです。こうした宿泊は、新しい友達をつくるとてもよい機会だと思います。

少年団活動には、

この他にもきのこ栽培や野鳥観察会、新春もちつき大会などがあります。このすべての活動の中では、「交流」という事がとても大切なことだと思います。

もう一つ緑の少年団活動で大切なことは、森林を増やすことです。今は、どん

観察教室、新春もちつき大会、最後の活動として卒団式がありました。

月に一回という活動でしたが、楽しい活動ばかりでした。中学生になったのでサポーター役として参加して活動したのですが、どの活動も小学生と一緒にとても楽しく活

流の楽しさです。

緑の少年団活動の中で特に勉強になったのは、「少年団の交流会」です。

一泊二日の宿泊の交流会では、いろいろな事があります。参加したみんなは、ルールや生活のしかたの約束を守らなければなりません。海や川

どん森林が減ってきています。人間が、減らしてしまった自然は、これから増やしていかなければならないと思います。そしてその第一歩として、もっと私たちが自然のことを知り、他の人たちにも知ってもらうことです。

山形県きのこ振興会の活動状況

きのこの産地消費をめぐって

区での開催を予定しています。

需要拡大事業の実施

振興会では、県産きのこの需要拡大を図るため、県内外において、各会員による様々な需要拡大の取組みを展開しています。山形の秋の恒例

行事となった「林業まつり」、鶴岡で行われる「ウッドフェスティバル」、山形の秋の味覚を提供する「J A 全農フェア」などの県内イベントや、東京都「ゆとり都」で振興会事務局を中心とした四日間実施した「やまがたのきのこフェア」など、県外のイベントでも、山形のきのこをPRしています。

今年度も、「林業まつり」をはじめとした、各種イベントへ参加し、安

心で安全な健康食品である県産きのこの需要拡大事業を実施していきます。

賛助会員の加入促進

振興会では、生産者団体、森林組合等、七つの団体が賛助会員として、情報の交換や需要拡大の取組みを行っています。

特に、生産者による対面販売は、消費者ニーズの把握や安心・安全感を与える有効な手段といえます。このため、都内で実施する「やまがたのきのこフェア」では、今年も生産者による販売を予定していますが、このような取組みは、まだ十分とはいえません。

そのため、きのこ生産者等の賛助会員への加入を促進し、きのこの需要拡大を図っていきます。

おわりに

山形県は、原木なめこ生産量が全国一位など、有数のきのこ生産県であります。県内外へのPRが十分といえない状況です。

きのこ振興会では、今後とも、おいしい山形推進機構等と連携しながらのきのこの産地消費と評価向上に向けて、活動を展開していきます。

〔県森林課〕

山形県きのこ振興会は、きのこ類の品質及び生産性を向上し、消費と販路の拡大を図り、きのこ産業の振興に資することを目的とし、昭和六十二年設立され、山形県、全農山形県本部、全農山形県内本部、県森連、農協中央会、最上町、鮭川村、各地域林業振興協議会などの正会員及び活動趣旨に賛同する賛助会員により構成されています。

去る五月二十三日、平成十五年総会を開催し、今年度の活動方針を決定しましたので、昨年の取組み状況と今年度の計画について、お知らせします。

山形県きのこ品評会

山形県きのこ品評会は、県産きのこの品質並びに栽培技術の向上を図るとともに、生産意欲の高揚を図ることを目的とし、全国農林水産祭参加行事として開催するもので、今年で十七回目となります。昨年は新庄市の「ゆめりあ」で開催され、七十三点の出品があり、その品質を競いました。今年度は、十一月に庄内地

平成14年度山形県きのこ振興会需要拡大事業実績

イベント名	参加会員
第12回山形県林業まつり	県森林組合連合会
	最上地域林業振興協議会
	東南置賜林業振興協議会
	小国町森林組合
ウッドフェスティバル2002	最上広域森林組合
	県森林組合連合会
庄内地方林業振興協議会	
鮭川きのこ王国まつり	最上地域林業振興協議会
J A 全農フェア	全農山形県本部
てっぼう町青空市場	東南村山林業振興協議会
きのこ教室	東南村山林業振興協議会
農産物フェア	さがえ西村山菌茸部会
北村山地区林業まつり	北村山林業振興協議会
きのこフェア	小国町森林組合
(その他県内イベント)	西村山地方林業振興協議会
(県外イベント)	
神宮外苑いちよう祭り	全農山形県本部
大宮八幡花笠祭り	
山形フェア	
関東ドマンナカ祭り	最上広域森林組合
やまがたのきのこフェア	事務局、小国町森林組合
量販店における販促会	全農山形県内本部

限りある地球環境の中で、人類が継続して生存していくためには、世界全体での、資源循環型社会の構築が不可欠であり、森林についても、その保全と利用を両立する「森林経営の推進」に国際社会が一体となつて取り組む必要があります。

地球サミットから十年目の平成十四年八月に開催されたヨハネスブルグ・サミットでは「持続可能な森林経営」を推進する重要性が改めて確認されました。その推進を支援する森林認証・ラベリングの取り組みが展開されようとしています。

日本における持続可能な森林経営
ところで、世界の森林は過剰な利用により減少・劣化しておりますが、我が国の森林は資源として利用されないことにより整備されず、管理水準の低下により多面的機能の発揮にも支障をきたし、世界の森林とは逆の形で劣化する恐れがあります。

そこで、世界有数の木材輸入国である日本は、世界規模での「持続可能な森林経営」を推進する観点から、国内の資源を充分利用していくことが国際社会の一員としての責務とされています。そのため、林業生産活動や、山村社会の長期的継続を維持できる状況をつくりながら社会全体

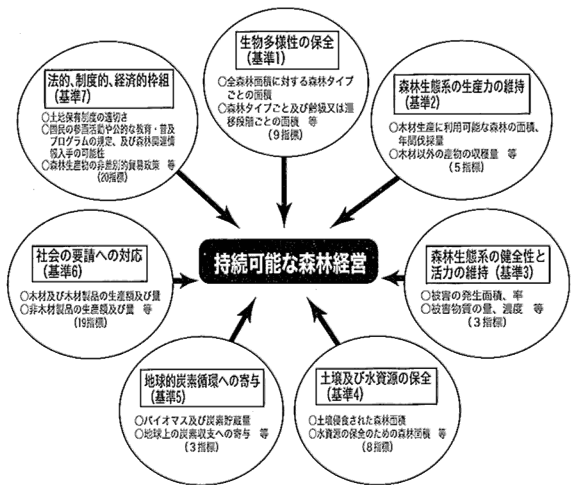
持続可能な森林経営

～持続的な林業経営技術

の普及を目指して～



持続可能な森林経営のイメージ



モントリオール・プロセスの基準・指標から

で国内の森林整備と保全、木材利用を支えていくことが重要となります。

新たな基準・指標の作成

現在日本における「持続可能な森林経営の取り組み状況」を客観的に評価するため、温帯林等を対象にしたモントリオール・プロセスに参画しており、平成十五年度には各国の状況をとりまとめることになってい

ます。そのなかでは、「森林生態系の生産力の維持」「生物多様性の保全」「土壌及び水資源の保全」「地球的炭素循環への寄与」などの基準や指標が示され、今後の具体的推進に結びつくこととなります。

新たな林業経営での普及指導事業

今後、森林・林業関係者のレベルでこれら基準に対応した施業技術の定着、持続的な森林経営の確立を図る必要があります。しかしながら、森林所有者の自助努力では、このような課題に十分対応するには限界があり、知識・技術の普及、関係者との連絡調整等を行う林業普及指導事業がその役割を十分に果たすことが重要となっています。

平成十五年四月に報告された「林

業普及指導事業の在り方に関する懇談会報告書」の提言においては、取り組むべき課題を「持続的な森林経営の確立に資する技術の移転等」に重点化し、地域の実情に応じた効率的な事業展開を図る必要があるとされています。

具体的な方針

県としても、山形県森林整備長期計画に則し、山形県林業普及指導事業実施方針を作成し、森林資源の循環利用につながる間伐の推進、自然の力を利用した特用林産物の生産指導など、五つの重点項目定め、林業関係団体との協力のもと効果的な普及指導に努めることとしています。

その中では、資源循環を基本とする持続的な森林経営技術の確立のため、「森林の多面的機能の発揮に向けた森林造成技術」や「森林の公益的機能を発揮しながら採算性の確保を目指す経営手法」等現場の実情にあった具体的な技術開発の推進と、その情報を提供していくこととされています。今後、試験研究の成果や産学官連携による新たな技術の速やかな現地普及を図るため、現地実証事業等の手法により、積極的な事業展開を推進し普及啓発を行ってまいります。「森林研究研修センター」

特用林産功労者表彰

板垣 隆さん（しいたけ栽培 最上町）

去る五月二十三日、東京都法曹会館において、平成十五年日本特用林産振興会通常総会が開催され、その席上で第十六回特用林産功労者表彰式が行われました。

この表彰は、長年にわたり地域の特用林産の振興に尽力され、現在も

活躍されているかたに送られるもので、本県からは、これまで、きのこ、山菜生産者等、十七名が受賞しています。

今年度は、最上町の板垣隆さんがシイタケ栽培で受賞されましたので、紹介します。

回	年度	受賞者氏名	市町村	対象作目
第1・2回		該当者なし		
第3回	平成2年度	村井 貞 克	鶴岡市	なめこ
第4回	平成3年度	佐藤 正	平田町	なめこ
第5回	平成4年度	高橋 和 雄	鮭川村	えのきだけ
第6回	平成5年度	小山田 久五郎	東根市	えのきだけ
第7回	平成6年度	嘉藤 武	飯豊町	木炭
第8回	平成7年度	亀井 敬 太	朝日村	ぜんまい
		佐藤 政 巳	上市市	あけび
第9回	平成8年度	渋谷 涉	朝日村	ねまがりだけ
第10回	平成9年度	該当者なし		
第11回	平成10年度	大場 幸 一	最上町	しいたけ
		深田 周 一	鮭川村	えのきだけ
第12回	平成11年度	海鋒 修 三	天童市	あけび
第13回	平成12年度	阿部 勇 一	米沢市	木工品
		斎藤 定 雄	羽黒町	ねまがりたけ
第14回	平成13年度	高橋 弘 嗣	鮭川村	なめこ
		五十嵐 勇 喜	温海町	しな織
第15回	平成14年度	阿部 高 雄	鮭川村	なめこ
		竹田 総 一	川西町	しいたけ
第16回	平成15年度	板垣 隆	最上町	しいたけ

板垣さんは、平成五年の冷害を契機に、県と町の補助を受け、稲作との複合経営として、原木しいたけ生産を開始しました。

以来、高品質のしいたけ生産を目指し、技術の研鑽を重ねた結果、山形県きのこ品評会において毎年のように入賞し、平成十四年度の第十六回山形県きのこ品評会においては、最優秀賞である林野庁長官賞を受賞されました。

板垣さんは、菌床しいたけ栽培が増えるなか、自然力を活用した天然の味に近い原木しいたけ栽培にこだわり、現在は、原木八千本から、年間九トンのしいたけを生産しています。

また、板垣さんは、JA最上町菌茸部会の幹事を務め、同部会が実施する、高品質生産技術研修や品評会等において、中心的な人物となっています。さらに、同部会が実施する、都市部消費地での販売会等にも積極的に取り組む、生産者の顔が見える販売を目指しています。

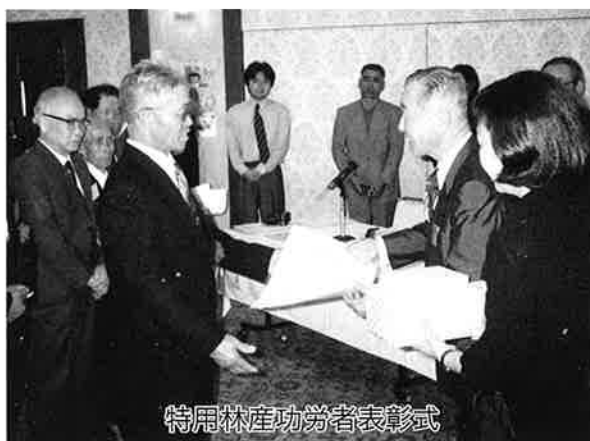
原木しいたけの県内の主産地となっている最上町の発展のために、JA最上町菌茸部会の活動を中心とした活躍が期待されます。

板垣さん、受賞おめでとうございます。

ました。



原木しいたけを収穫する板垣さん



特用林産功労者表彰式

〔県森林課〕



山形県の古木・名木⑫

杉下大杉

山辺町杉下

の枝が地上約三メートル上で真横に約二メートル伸び、すぐ二本の太幹になって直立している。杉樹としては近郊でも珍しい大木で、神社をおおい、その歩みを守ってきた約千年の歴史を持っていると推定される。

〔山形県森林協会〕

この大杉は、杉下地区の氏神八幡神社背後の広場の斜面にあり、昭和四十六年四月一日に町指定天然記念物に指定されている。
根回り九メートル五〇、目通り幹回り七メートル五〇、高さ約四〇メートルあり、下の



(案内略図)

公共木造施設 ⑬

便所と展望台

朝日村大字越中山

いにしえ
(古の里森林公園内に
整備された便所と展望台)

完成年度 平成13年度

幅員 53㎡

構造 木造平屋建

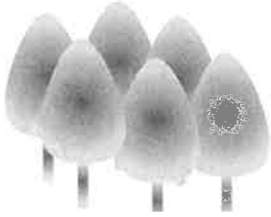
問合せ 朝日村農林課

特徴 古の里森林公園には、古い民家を解体移転した施設があるため、周囲の景観等を考慮し、茅葺き屋根の古い民家をイメージした施設となっている。



森林に対する様々な要望にこたえる

地域に根ざした森林づくりを進めます



財団法人 山形県林業公社

990-0041 山形市緑町一丁目9番30号

TEL 023-623-3505

FAX 023-623-3530

ISO 9001



お気軽にご用命ください

- ☆ 土壌汚染・地下水汚染調査及び修復業務
- ☆ 保安林解除・林地開発許可申請書作成業務
- ☆ 治山GIS、地すべりGIS及び都市GIS業務
- ☆ 山岳トイレの設計施工

土と水と緑の技術で社会に貢献する



国土防災技術株式会社
山形支店

☎990-0023 山形市松波1-16-9(カネマルビル)
TEL(023)622-3979・FAX(023)631-7294

建設コンサルタント/建設業/地質調査業/測量業

環境を守ろう

災害に強い県土を
良質な水の安定供給を
緑豊かな環境づくりを

森林を育てよう

山村の生活環境の整備を
森林の恵みの循環利用を

山形県森林土木建設業協会

山形市桜町2-35(林業会館内)

電話(023)632-3893 FAX(023)632-5454

山形県林業機械化協会

林業機械化の先端情報をすばやく提供

会長 奥山 幸作 (株)ヤンマー農機山形 村山支店)

会員社名	(所在地)	会員社名	(所在地)
(株)ヤンマー農機山形村山支店	(村山市大字榎山)	新興商事	(鶴岡市稲生)
(株)村上キカイ	(酒田市両羽町)	(有)東栄重車輜	(天童市大字清池字金石段)
(株)村山商工	(米沢市松が岬)	コマツ山形(株)	(山形市蔵王成沢字町浦)
東北建設機械販売(株)山形支店	(天童市高摘字金石段南)	エレクトラックスジャパン(株)ハスクバーナ事業部盛岡営業所	(盛岡市津志田)
(有)林和機工	(山形市馬見ヶ崎)	東北ヤンマー(株)東日本営業所	(仙台市宮城野区福田町南)
山形県森林組合連合会	(山形市蔵王成沢字町浦)	(株)筑水キャニコム仙台センター	(仙台市太白区茂庭字人來田西)
東北共立エコー(株)山形営業所	(東根市大字郡山字ノギ八)	(株)南星仙台営業所	(仙台市太白区砂押南町)
イワフジ工業(株)営業本部東北支店	(水沢市桜屋敷西)	(株)山工社	(山形市宮町)

山形県林業機械化協会事務局 山形市桜町2-35(林業会館内) TEL 023-633-1536 FAX 023-624-0804

確定利回りの1年貯蓄

ワリノ

半年複利の5年貯蓄

ワリノワイド

運用ニーズに応える

投資信託

農林中央金庫 山形事務所

〒990-0042 山形市七日町3-1-11(市役所向い) TEL.023-641-6271

農林債券・投資信託等に関するお問い合わせは

全国コールセンター
9:00~17:00(土・日・祝日除く)

☎ 0120-345-526



茸の冷汁
(山形県きのこ料理発表会・推奨料理)

暑い夏には冷たいきのこ

きのこは低カロリーで栄養豊富な健康食品です。

きのこパワーで健康生活! “毎日食べよう山形きのこ”

山形県きのこ振興会

〒990-8570 山形市松波2-8-1 ☎023-630-2542

—全国食用きのこ種菌協会会員—
〒999-7757
山形県東田川郡余目町払田字村東17-2



株式会社
河村式種菌研究所

お問い合わせは：電 話 0234(42)1122(代)
F A X 0234(42)1124

トンビマイタケ菌床 庭先でも栽培
好評予約受付中! できます。



森林やまがた7月号 平成15年7月1日発行 通巻第76号

監 修 山 形 県
編集・発行 山形県森林協会
〒990-0045 山形市桜町2-35 林業会館内
TEL 023-631-6566 023-622-8823
FAX 023-631-6573

「ゆとり都」森林課ホームページ <http://www.pref.yamagata.jp/ns/shinrin/index.html>

古紙配合率100%再生紙を使用しています